

「想定外」。付度という言葉とともに近年よく使われるようになりました。コロナウイルス対策のために、アリーナでの卒業式を開催できなくなるとは、2月中旬まで想定していませんでした。

2019年度の卒業式は、アリーナでの開催を中止とし、大幅に縮小して開催する運びとなりました。卒業生のみなさんは本当に残念に思っているでしょう。私も残念です。みなさんとともに祝杯をあげたかった。

コロナウイルス問題、原油価格や株価の急落、国際便の運航縮小・停止、スポーツ大会、集会やコンサートの自粛、入社式の中止など、卒業生のみなさんの旅立ちは、激しい雷雨のなかの旅立ちとなりました。

人生100年時代。おそらくみなさんはこれから何度も「想定外」の事態に直面するでしょう。私も石油ショック、バブル崩壊、阪神・淡路大震災、リーマンショック、東日本大震災、大型台風の首都圏直撃、コロナウイルスなど、「想定外」の事態に何度も直面しました。

首都圏直下型地震、富士山の噴火、超大型台風の直撃、ゲリラ豪雨による河川の氾濫などは、経済学の取り扱う範疇を超えています。しかし、いずれも経済的な損失と復興という経済学の問題と密接に関わっています。

どんな「想定外」の事象（「ブラックスワン」）がいつ、どこで、どの程度の規模で起こるのか。それは私たちには（地震学者であっても）、予測できません。しかし、今後のみなさんの人生の中で、「想定外」の事象が何度も生じる、そのことを想定することはできます。「想定外」の事象に対する事前の対策や心の準備もできます。

経済史や経済学史で学習したことは、歴史という過去の（暗記するだけの）知識ではありません。「想定外」の事象がビジネス、社会、生活にいかなるショックや混乱を与え、それが政府や地方自治体の政策・対策や人々の行動によって、どの程度の期間でどのようなプロセスを経て収束していったのか、歴史からも学べるはずですよ。

卒業生の新しい旅立ちに向けて。

大切なことは、未来において「想定外」の事象が生じることを「想定」しておくことです。みなさん自身はもちろんのこと、家族、友人、知人、同僚の生命、財産を守るために重要なことです。「かっこ悪い」、「ダサい」。何といわれても構いません。スマートフォンのバッテリーは100%充電、乗用車のガソリンは満タン、ビジネスバックにはミネラルウォーターを1本、チョコレートや飴、マスク、ティッシュ、常用の薬、紙幣と硬貨も携帯してください。アパートを借りる、住宅を購入する際には、ハザードマップで確認を。自宅には2週間分程度の食料、水、日用品を備蓄しておいてください。

ここまでお読みいただき、ありがとうございます。実はもう一つ、学部長のメッセージとしてみなさんにお伝えしたいことがあるのです。

それは、最初に書いた「付度」と関わることです。イノベーションや組織改革。変革の視点や発想は、最先端の科学技術を習得した博士や、ベテラン社員や部長、役員から生まれるとは限りません。むしろ何も知らない新入社員の方がイノベーティブな改革案を提示できます。なぜなら、組織の伝統に染まっていないからです。

なぜいまだにファックスを使っているのか。机の配置を変えたら移動が楽になるのに。このアプリを使ったら事務が効率的になるのでは。うちの製品、こんな用途にも使えると思うけど、新しい取引先を開拓しなくていいのか。高いヒールは労働生産性を引き下げているのでは。環境マネジメントをうたっているにはコピーの量が多すぎるのでは。テレワークを活用したら、時差出勤も在宅勤務も可能になるのに。

新入社員は未経験者。だから改革者になれる資質がある。組織の慣性に引きずられずに、こんな発言をしたら「恥ずかしい」、「かっこ悪い」と思わずに、繰り返し新しい改革の視点を唱えてください。その行動はきっと生産性の低い日本社会の変革にもつながるにちがいない。

かっこ悪いって、なんてかっこいいんだろう。